

**第4学年 国語**

**1 結果の分析**

(1) 結果の概要

- ◇ほとんどの評価の観点で、区の平均より高い結果が得られた。しかし、読む能力は、昨年は7.5ポイント、区の平均を上回っていたことに対して、今年は1ポイント区の平均を下回った。
- ◇基礎、活用においては、区の平均より基礎が約1ポイント、活用が3.6ポイント上回っている。
- ◇全体的に目標値を上回っているが、「言葉の学習」の問題や「作文」の問題に課題が見られた。
- ◇正答数分布グラフでは、80%以上の正答率の児童が全体の約5割を占めている一方、正答率60%以下の児童が2割程度おり、個別の支援や底上げが必要である。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の学習」の理解についての正答率が全国正答率を3.7ポイント下回っている。</li> <li>・「作文」の問題についての正答率が、全国正答率を2.2ポイント下回っている。</li> <li>・「ローマ字のつづり」の理解についての正答率が全国正答率を22.7ポイント下回っている。</li> <li>・読む能力は全国平均を上回っているものの、区の平均を1ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→言葉の学習に関する習熟が全体的に不十分である。</li> <li>→書くことに対して抵抗感をもっている児童が多く、個別の支援や底上げを行う必要がある。</li> <li>→ローマ字のつづりに関する習熟が全体的に不十分である。</li> <li>→語彙が乏しく、考える力や関連付ける力が不十分な児童も多い。</li> </ul>

**2 改善策**

(1) 具体的な改善策

- ・作文単元や言葉の学習の際に、短文作りや端的な言葉で表現させる活動を行い、表現力を磨く。
- ・毎時間、丁寧に振り返りを行い、自分の思いや考えを表現する活動を続け、「書く」ということに慣れさせていく。
- ・朝学習等の時間を活用し、ローマ字の習熟を図る。
- ・読む力を付けるために毎日の音読カード提出・読書活動に力を入れる。言葉の意味を国語辞典で調べることや、短文を作ることで語彙力を付ける。
- ・文章を読んだ後に、読んだ内容をできるだけ短い文でまとめる練習をすることで、要約する力を付ける。
- ・読むときに、より深く文章を理解できるよう、読み方の視点を示すことで、自分の知識や経験と結び付けて情報を補ったり、イメージを膨らませたりしながら、思考力を働かせることができるようにする。

(2) 改善策(手だて)に対する検証

- 月に数回、朝学習で東京ベーシックドリルの練習問題を行い、正答率80%を指標とし確認する。
- 指定された字数や書き方で記述させる学習を行い、一人一人が正しく書けているかを確認する。
- 言葉の使い方が適切かを見取り、正しい表現方法を指導する。不十分な児童には個別に指導を行い、正しく書けるようにする。

## 第4学年 算数

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

- ◇全ての評価の観点で、区の平均より知識・理解を除いて高い結果が得られた。
- ◇基礎、活用においては、区の平均より1ポイント上回っている。
- ◇正答数分布グラフでは、80%以上の正答率の児童が全体の約8割を占める一方、正答率60%以下の児童が1割程度おり、全体の底上げ、個別の支援が必要である。

#### (2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<p>○全ての問題で、目標値を上回っているものの、7題で全国平均正答率を下回っており、特に以下の事項の改善が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「十進位取り記数法について理解している。」2(1)</li><li>・「分子が1の分数が何個で1になるかを理解している。」4(2)</li><li>・「1分=60秒の関係を理解している。」9(3) 全国正答率より3.8ポイント低い。</li><li>・「棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して棒グラフをかくことができない理由を説明することができる。」問題の正答率が24.8%であり、無解答が29.1%であった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>→基本的な事項の定着に課題がある。</li><li>→分数の意味を理解し、数字だけでなく、言葉や図、数直線などで多面的に捉える力が不十分である。論理的な思考に課題がある。</li><li>→基本的な事項の定着に課題がある。</li><li>→理由を説明することに慣れておらず、どのように答えを表現すべきか判断する力を付ける必要がある。</li></ul>

### 2 改善策

#### (2) 具体的な改善策

- ・数や量の感覚を養うため、具体物を用いた数学的活動を意識的に取り入れたり、学習した内容を日常生活と結び付けるようにしたりして、理解を深める。
- ・計算結果だけでなく、なぜそう導いたのか、計算方法や理由を書かせることを、毎時間の授業で意識的に取り入れ、筋道立てて考える力を伸ばす。

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

- 各単元のワークテストにおいて、それぞれの領域の正答率90%を指標として、理解度を見取る。また、単元ごとに学習ノートを集め、数や量に対する感覚が豊かになっているかを見取る。
- 文章問題を解く際は、何を求める問題なのか、何を基に考えるのか、見通しをもって考えさせ、一人一人が正しくできているかを確認する。自分の考えをきちんと表現できているかどうか、学習ノートを集めて確認し、不十分な児童には個別に指導を行う。
- 朝学習等で東京ベーシックドリルを活用し練習問題に取り組みさせる。正答率80%を指標とし確認する。